

◆石教研課題部会「文化活動」～第2分科会 読書活動～

2020年10月発行

おすすめ本	書名・著者・出版社	おススメポイント	おすすめ本	書名・著者・出版社	おススメポイント
	ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー レイディみかこ 新潮社	この一冊で、異文化、人種問題、経済格差、ジェンダーなど、もりだくさんの課題について気軽に考えさせられます。重くなりすぎないところが魅力的です。		少年少女日本文学館のちいさな山月記 尾崎一雄 講談社	いろいろな虫の話が載っていますが、「はえ」の話は生徒が声をあげて笑っていました。
	父の詫び状 向田邦子 文春文庫	国語の授業で、向田邦子「字のないはがき」を扱う際、その他の作品ということで、この本の中の「ごはん」を紹介しようと考えています。		なぞかけどうじょう 中川ひろたか 金の星社	たくさんのお話を見ながら一生懸命考えていました。こは遊びの絵本です。
	キンダーブック しぜん⑤ たんぽぽ 田中肇 フレーベル館	2年生国語「たんぽぽのちえ」と関連させて読みました。「根」のことやたんぽぽを生活に生かす工夫など、情報がたくさんで、子どもたちは興味を広げて楽しんでいました。		#KuToo (クートゥー) 石川優実 現代書館	この本を読み聞かせたわけではないので、実践はありませんが、差別の問題(女性・黒人、その他)については、日常的に新聞等を読ませて、感想を書かせています。
	へんてこパン屋さん Goma フレーベル館	料理家のGomaによる実際に作れるへんてこなパンが出てきます。お客さんはそれぞれ悩みを抱えていて、へんてこパン屋さんが、解決に役かいます。		うまれてきてくれてありがとう にしもとよう 童心社	かみさまに「うまれていいよ」と言われて、ぼくはママを探し続けます。ママもずっと会える日を待ち望んでいます。お話を終えた後、子どもたちは、何だかうれしそうなお顔をしていました。
	なぞなぞえほん 1のまき～3のまき 中川李枝子 福音館書店	平仮名や片仮名あけて書かれているので、読んだあと、その日の宿題として、答えと問題の書き写しをさせていました。単純な文字練習より、楽しんで取り組んでいました。		おおきなかぶ たかどのほうこ 福音館書店	出版社が変わったことで、文章が変わり、挿絵も変わったので、授業でふれました。「こっちの方が好きだな。」と楽しく話し合いができました。(教育出版と光村を同時に読み比べています。)
	としょかんへいこう 斉藤洋 講談社	図書館でできること、してはいけないことが、迷路、クイズ、絵探しなどで楽しみながら学べます。図書館には、絶対ないようなものも出てきて、子どもたちは「そんなのなーい!!」と大喜びです。		まあちゃんのながいかみ たかどのほうこ 福音館書店	おかっぱのまあちゃんのお話で、想像力豊かなお話に、子どもたちがどんどん引き込まれていく、とっても楽しい絵本です。
	せんとくかあちゃん さとうわきこ 福音館書店	せんとくが大好きで、たくましいかあちゃんとかみなりとの楽しくて元気のいい物語です。かあちゃんになりきって読み聞かせると、子どもたちも喜んで聞き入ります。		アレクサンダとぜんまいねずみ レオ=レオニ 好学社	教科書が変わり、「アレクサンダとぜんまいねずみ」がなくなりました。読み聞かせをすると、挿絵を見て、ぜんまいねずみの足や紫の小石を見つけて喜んでいました。
	おやすみなさいのおと いりやまさとし 講談社	わいわい文庫～マルチメディアDAISY図書2019～Ver. 1に収録されており、自動読み上げ機能。部屋を暗くして投影し、シアター風にする事で、子どもたちのテンションが上がります。		あつかったらめげばいい ヨシタケシンスケ 白泉社	ヨシタケさんの本は、6年生でも喜びます。「～だったら？」に「(自分なら)～すればいい」と口にした後、本に書かれている言葉を聞いて「それなの？」と。みんなが好き勝手なことを声にながら読み進められて楽しいです。

	小学生の究極の自学ノート図鑑 森川正樹 小学館	子どもたちが真似したくなるような「自学ノート」を図鑑的に見せてくれる一冊。子どもも先生も、そして保護者にも読んでほしい「これからの学び方」図鑑です。		ヤワな大人にならない! 生きかたルールブック 齋藤孝 監修 日本図書センター	学級文庫の中に入れておくと、手に取って読んでいる様子。学活や道徳の時間に本に書いてあったことを教えてくれる子もいました。あわせて「メシが食える大人になる! よのなかルールブック」もおすすめです。
	ねえ、どれがいい? ジョン・バーニンガム 評論社	次々にふりかかる究極の選択に子どもたちは大盛り上がり! 低学年から高学年まで楽しめる一冊。		おしりをしりたい 鈴木のりたけ 小学館	いつも私たちを支えてくれている“おしり”のことがたくさん知れる一冊です。保健室でも手に取られる機会が多い本です。
	ちいさいきみとおおきいほく ナティヌ・ブラン・コム ポプラ社	誰かを大切に思うって、どんなふうに芽生えていくものなのでしょう。新しい友達と出会い、時間をともに過ごし、少しずつ相手のことがわかってくるうれしさは、誰かを大切に思う心のたねになるのかもしれない。休校明けに取り上げた一冊。		おおきなきかほしい 佐藤さとる 偕成社	動物が住み、見晴台のある木に登ってみたいと考える子どもの夢を書いた絵本で、本にあまり興味の薄い子どもにも興味をもてるような魅力的な絵がある本
	よい子への道シリーズ おかべりか 福音館書店	保健室に来る子どもたちに大人気。してはいけないこと…を見て、逆に「そんなことやらないよ〜。」と、自分はよい子の気分になれるのかもしれない。		パパのしごとはわかるものです 板橋雅弘 岩崎書店	子どもには見せれない仕事…悪役のプロレスラー。でも、パパと息子、男同士の約束…には必ず心に響きます。子どもたちも興味津々でした。映画化された作品を見てほしいです。関連する絵本も2冊あります。
	おさる日記 和田誠 偕成社	毎年読み聞かせて読んでいます。お父さんがお土産に買ってきてくれた「おさる」、どんどん成長していった…? 「ふしぎなことが二度もおこるなんて!」というお母さんの言葉にとっつきり!!! とても面白いお話です。		ともだち 谷川俊太郎 玉川大学出版部	今の時代には説明が必要どころもありますが、「ともだち」について考えるよい本です。道徳の時間の終わりに読み聞かせしました。学級開きで読んでいますという先生もういらっしゃいました。
	いいからいいから 長谷川義史 絵本館	「いいからいいから」が口ぐせのおじいちゃん。おじいちゃんの「いいからいいから」をのんびり語るように読みます。どんなことが起こっても「いいからいいから」ですべてがまるく収まる様子を見て子どもたちもここにこになります。		たったさんびきだけのいけ 宇治勲 PHP	友達とのかかわり方や心の変化について考えさせられる本です。おたまじゃくしの行動に目が向きますが、魚を助ける時のための行動にも注目です。
	すべりだい 鈴木のりたけ PHP研究所	小学校入学の4月ごろに読むと、必ず子どもたちに大ヒットする絵本です。みんなで声を出したり、ギャグに笑ったり、楽しい時間を共有できます。		ちいさいももちゃんシリーズ 松谷みよ子 講談社文庫	童話やおとぎ話のようなやわらかさと、現実の非情さが両立する本です。小学校低学年の子でも理解できる純文学だ…と、大人の私が夢中になりました。文庫は大人向き。酒井駒子さんの絵が素敵です。
	にじいろのさかな マーカス・フィスター 講談社	絵の色彩が美しく、じっくりと見せながら読みます。自分も海の中にいるような気分になります。		おしさんなんのぎょうれつ? オームラトモコ ポプラ社	50番、49番…と次第にゴールに近づくとワクワク感を持って、一匹ずつ指で押さえながら読むのがポイントです。ラストの見開きページは圧巻! (ほかにもシリーズあります)
	ぼんぼん山の月 あまんきみこ 文研出版	母うさぎが漁師にうたれたとも知らず子どもたちは母の帰りを待っている、その声を聞いた山姥はそっとお団子を子どもたちに置いてくる…。切なくて、でも読み終わった後に風の子や山姥の心遣い、やさしさが染みてきます。		みえるとかみえないとか ヨシタケシンスケ アリス館	宇宙飛行士のほくが降り立った星は目が3つある人の星。ほくは普通になっているだけに、「後ろが見えないなんてかわいそう」と言われる。常識、当たり前、普通って何? 価値を問われる一冊です。

	<p>どうぶつえんの いっしょうかん</p> <p>斉藤 洋 講談社</p>	<p>月曜日から日曜日までの7話と日曜日の夜を合わせて8つのお話があります。どれも読み聞かせには丁度良い長さで、動物たちの会話や行動に子どもたちは笑いながら聞いてくれます。</p>		<p>友だちづきあいには大切なこと</p> <p>戸塚 美奈 双葉社</p>	<p>友達ともっと仲よくなったために知っておきたいルールやマナーが文章とマンガでわかりやすく書いてあります。「クレヨンしんちゃん」が教えてくれるので、子ども達の興味・関心が高いです。</p>
	<p>どうぞのいす</p> <p>香山 美子 ひさかたチャイルド</p>	<p>うさぎさんが作った「どうぞのいす」。「どうぞならば遠慮なく」といただいて、次の誰かのために「どうぞ」と置いていく。動物たちの思いやり輪が広がります。</p>		<p>いいから いいから 2</p> <p>長谷川 義史 絵本館</p>	<p>シリーズものになっている絵本です。ほくとおじいちゃんとかみなり親のやりとりが楽しい1巻目、2巻目はおばけが登場。うめしそうな声で「どろどろ〜」と読んであげるともりあがります。</p>
	<p>だるまさんが</p> <p>かがくい ひろし ブロンズ新社</p>	<p>どんな子でも、楽しく読めます。読み聞かせをすると、とても反応がいいです。</p>		<p>まってる。</p> <p>デヴィッド・カリ 千倉書房</p>	<p>読み聞かせをしながら、思わず声がつまった本です。いろいろな「まってる。」が素敵です。</p>
	<p>の</p> <p>junaida 福音館書店</p>	<p>「の」の連続で繋がっていく世界。わたしの〜お気に入りのコートの中〜ポケットの中のお城の〜と、ページをめくるたびに画面の一部にズームインされ、次のページへ。</p>		<p>つまない つまんない</p> <p>ヨシタケ シンスケ 白泉社</p>	<p>すごく「つまんなそう」に読むことで、おもしろそうなことがより楽しく思えたようで、大笑いでした。なかには「なるほど!」と思えることもあったようでした。</p>
	<p>ほげちゃん</p> <p>やぎ たみこ 偕成社</p>	<p>へんな顔のぬいぐるみのほげちゃんが活躍します。怒りっぽいけど心のやさしいほげちゃんが、子どもたちは大好きです。シリーズの各々に双六や型紙などのおまけがあり、それらも大好評でした。</p>		<p>ぼぼぼあちゃん シリーズ</p> <p>さとう わきこ 福音館書店</p>	<p>書画カメラを使って、大きく絵本を映して読み聞かせをしました。映画みたい!と子どもたちはよろこんでいました。</p>
	<p>これはのみのびこ</p> <p>谷川 俊太郎 サンリード</p>	<p>1ページごとに言葉が増えていき、最初は短かった分がどんどん長くなっていきます。長くなっていく文を一息で頑張って読んでいくと、子ども達ははらはらしながら楽しく聞いていました。</p>		<p>おこだでませんように</p> <p>くすのきしげのり 小学館</p>	<p>読みながら思わず泣いてしまいそうになります。親、教師の心にぐっとささるものがあります。</p>
	<p>よかったね ネットくん</p> <p>シャーリッブ 偕成社</p>	<p>カラーの絵と白黒の絵が交互になっていて、白黒のページで主人公のネットくんがピンチになります。しかし、次のカラーのページでピンチがラッキーに変わります。</p>		<p>ぶーちゃんとおにいちゃん</p> <p>島田 ゆか 白泉社</p>	<p>とてもわかりやすい内容で、絵がかわいいです。</p>
	<p>はらぺこあおむし</p> <p>エリック・カール 偕成社</p>	<p>とてもわかりやすい内容で、絵がかわいいです。</p>		<p>ノラネコぐんだんと海の果ての怪物</p> <p>工藤 ノリコ 白泉社</p>	<p>絵本ではなく少し長い読み物です。14章にわかれているので、区切り良くよろしく願いいたしますミーティング以下背が出来ます。低学年におすすめです。</p>
	<p>3びきのかわいいオオカミ</p> <p>ユージーン・トリビザス 富山房</p>	<p>普段悪者になることの多いオオカミをかわいらしく、食べられるはずが「悪い大フタ」として出てくるフタを大きさにガラ悪く読むのがポイントです。</p>		<p>だめよ、ディビッド!</p> <p>ディビッド・シャノン 児童図書館</p>	<p>特学で読み聞かせを行いました。ディビッドの行動に子どもたちはくすくす笑ってました。その後ディビッドにならないように気を付けていたりしていました。</p>

	<p>さがしています</p> <p>アーサー・ピナード 童心社</p>	<p>ヒロシマに原爆が投下され、8時15分をさしたままの時計、弁当箱、ワンピース…子どもたちは本に集中し、真剣に見入っていました。平和について考えられる本です。</p>		<p>ほくが いっぱい</p> <p>いもとようこ 岩崎書店</p>	<p>低学年に読んででも高学年に読んででも喜んで聞いてくれます。誰しも自分がいっぱいいて、何かやってくれたら…と思っているはず。自分がいっぱいいたらどうなるのか、にっここして子どもたちでした！</p>
	<p>阿賀のお地藏さん</p> <p>WAKKUN 考古堂</p>	<p>神戸から新潟へ引っ越してきたボクが、おじいちゃんに買ってもらった自転車に乗って、阿賀野川沿いを走ります。川沿いにあるお地藏さんについてちっちゃなおじいちゃんとおっちゃんに教えてもらいます。それは、阿賀野川で起こった「水俣病」という病気が関わっていました。公害の学習の導入で使うと、子どもたちが公害に対する認識が少し深くなります。</p>		<p>コツがわかる! 小学生の体育図鑑</p> <p>体育指導のスタートライン 成美堂出版</p>	<p>2020年8月に出版されたばかりの新しい本。イラストをたくさん載せ、ルビがついているので、子どもが見てもよくわかる本です。授業で行う種目を中心に、陸上競技やマッド運動、なわとび等、上達するポイントを解説しています。種目のコツのほかに、レッスン方法や挑戦技もあり、活用できそうです。</p>
	<p>うえきばちです</p> <p>川端 誠 BL出版</p>	<p>1年生の生活科であさがおのたねを植えた頃に読み聞かせます。毎日水をやっているときっと…芽が出るよ! 葉が出るよ! と楽しくなります。</p>		<p>月刊 かがくのとも 4 おしとりあそび</p> <p>井上大成 福音館書店</p>	<p>1年生の生活科きせつとなかよしはる なつ(いきものさがし)の事前学習で読み聞かせしました。身近な虫の持ち方やつかまえ方がわかりやすく説明されています。また、虫とりあみの作り方に子ども達は興味津々!!すぐに実践していました。</p>
	<p>Ketchup on Your Cornflakes?</p> <p>Nick Sharratt Scholastic</p>	<p>しかけ絵本になっていて、上下別でめくってあそぶことができます。外国語の授業(前置詞)で使えます。</p>		<p>HSCの子育てハッピーアドバイス</p> <p>明橋 大二 1万年堂出版</p>	<p>今、一番気になるHSC”子育て”と書いてあるが、本人が読んでOK!! 自分を知る本の1つ。 自分はこの本でいいと思えたらいいな。</p>
	<p>かくん どうしてボクだけしかくの?</p> <p>クリスチャン・メルバイユ 講談社</p>	<p>個性を認め合うことについて考える主人公だけ見た目が違い、みんなにはできないことができない…。仲間外れにされてしまう…。でも、みんなにはない光るよさが備わっており、それを知った仲間の見方が変わる。読み終えると子ども達の表情がやわらかくなり、友達との関わり方がやさしくなる。</p>		<p>ともだちや</p> <p>内田 麟太郎 偕成社</p>	<p>友達ってどんなものなのかな。さつねは、最後に「た」と言っているのかな…の問いかけに、子ども達の反応はたくさんありました。本当はさみしかったのは、誰だったのか…。とっても盛り上がりました。3年生の道徳の教科書に載っていて、この学習を子ども達は楽しみにしていました。</p>
	<p>夢をかなえる ㄥウ4</p> <p>水野 敬也 文響社</p>	<p>「3向上心」の内容に關わって、この本を紹介しました。このシリーズの本を知っている生徒も結構いて、反応も良かったです。中学生に使用しましたが、小学校5・6年生でも十分理解できると思います。</p>		<p>ヒロシマ きえたかぞく</p> <p>指田 和 ポプラ社</p>	<p>家族思いの鈴木六郎父さん。笑った顔の子どもたちなど写真にあふれる日常。それがあの日、突然原爆により失われる。写真には、この家族が生き生きと生きていた証が。「この笑顔がずっとつづくと思っていた」</p>
	<p>ええたま いっしょう!</p> <p>くすのきしげのり 岩崎書店</p>	<p>「正直」についての授業のおわりに読みました。先生におこられ、友だちとのやりとりでもむしゃくしゃしていた。いろいろなしてぼんとけりとはしたボールを交番に届けることにしました。すると、おまわりさんは、正直に行動することやあこがれをもつことの大切さに気付く絵本です。</p>		<p>まちんと</p> <p>松谷みよ子 偕成社</p>	<p>今年は、広島原爆の日が授業日だったので、直接的なものではなく、文学的なものを選びました。また、6年生ということもあり、絵から想像を膨らませてもらいました。家庭学習で「まちんと」の意味を探してくる子もいたり、その後もう一度手にとって読んだりしている子もいました。</p>
	<p>かしらつもり × もらったつもり</p> <p>かさいまり くもん出版</p>	<p>聞き違いと勘違いがどんどん進んでいき…子どもたちは大よこびで聞き入っていました。テンポよく展開し、子どもたちにも分かりやすい話ですが、読み終えた後に心に残ったことや考えさせられたことも多かったようです。</p>		<p>へいわとせんそう</p> <p>たにかわしゅんたろう ブロンズ新社</p>	<p>小学2年生の平和学習で読み聞かせをしました。「平和」と「戦争」と、どんなことがちがって、どんなことはちがわないのかが伝わる1冊です。子どもも大人も、自分の生活を振り返るきっかけになる1冊だと感じました。また、読み聞かせの時は、スクリーンにうつって児童が見やすくなるようにしました。</p>
	<p>365日の価値語</p> <p>菊池 省三 明治図書</p>	<p>この本は、大人向けの本ですが、日々の教育活動の中で、子ども達の考え方や行動をプラスに導いていく言葉(価値語)が紹介されています。「公の言葉を使う」「最速行動は、五つ星」などの言葉は、子ども達の行動を切りかえたい時に、よく使っています。</p>		<p>給食番長</p> <p>よしながこうたく 長崎出版</p>	<p>1年生の給食開始に合わせて読み聞かせをしました。博多弁のリズムも楽しく、目を輝かせて聞いていました。本のおかげで初日から完食する子がたくさん!! 同じシリーズに「おそうじ隊長」「あいさつ団長」等もあります。</p>